

学校評価シート（学校関係者評価）

松山南幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和2年3月25日（月）

出席者 （ 3 ） 人

評価委員 （ 3 ） 人

（ 保 護 者 3 名 ）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面のやり取りにて実施

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

自己評価、自分磨きチェックの結果を数値化しており、問題となる内容を、目標、課題として捉えていることから適切であると思います。

2. 評価結果の内容は適切であったか

各設問、項目に対して教職員は自己を客観的に捉え公正に判断していると考えられるため適切であると思います。さらに、自己評価を3段階でなく、4段階にすると評価が明確でわかりやすくなると思います。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

保育者の資質、能力は、個人差があるもののおおかた優れていると思います。更に今後、園全体で楽しく過ごせる環境を作っていけるのではないかと思います。全体的に見て、園の傾向として課題、取り組み、評価の一体化を意識しており、適切であると思います。自己評価の全体図は、今年度と昨年度実績が比較できるものにしていただけると取り組みの成果がわかり易くなり、より適切なものになると思います。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

自己評価の結果から目標値に近づくための課題を具体的に提示していると思います。特に安全教育、特別支援教育など取り組む課題が明確に記載されており、適切であると思います。

(学)東松山学園 松山南幼稚園

＜教育方針＞

心身共に健全な幼児の成長発達のために、適切な環境のもと、集団生活を通して幼児の自主性を育み、豊かな人間性を養うべく、この時期に必要な諸能力の開発を助長し、時代の変化に対応できる未来の子どもを育てる幼児教育を推進する。

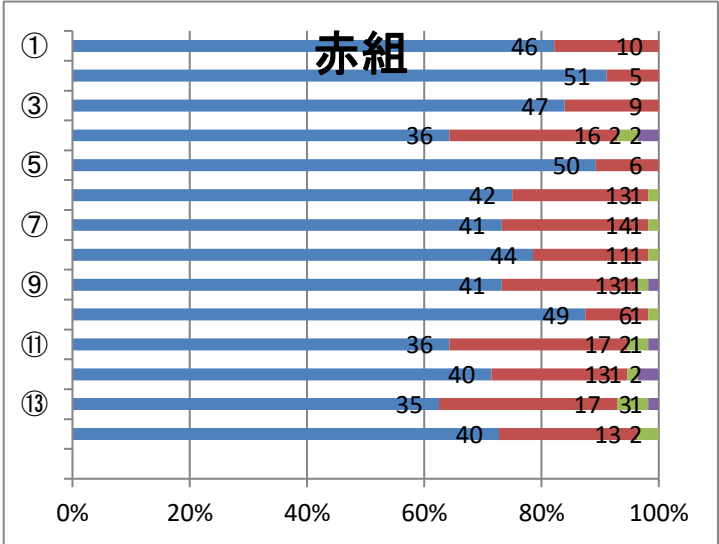
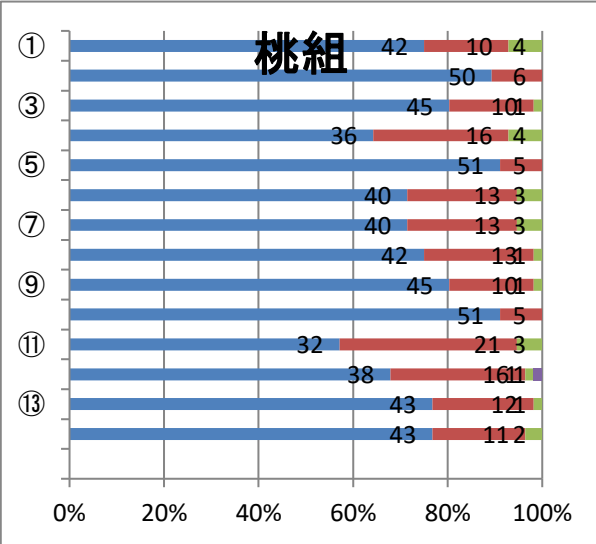
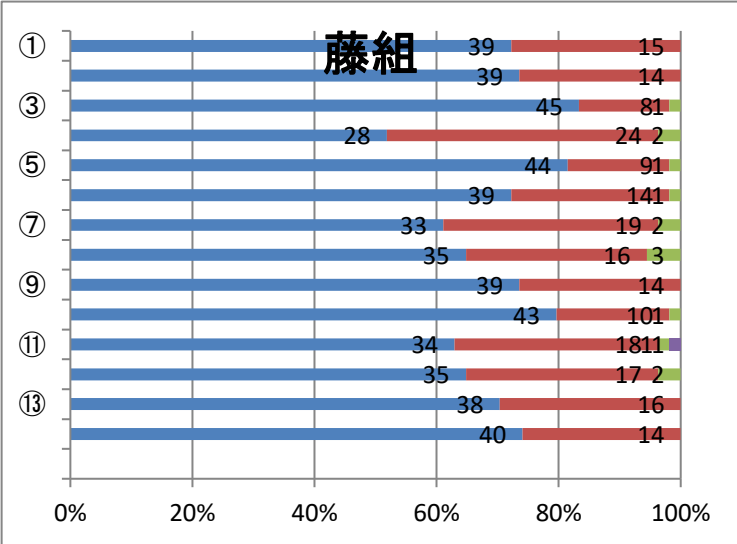
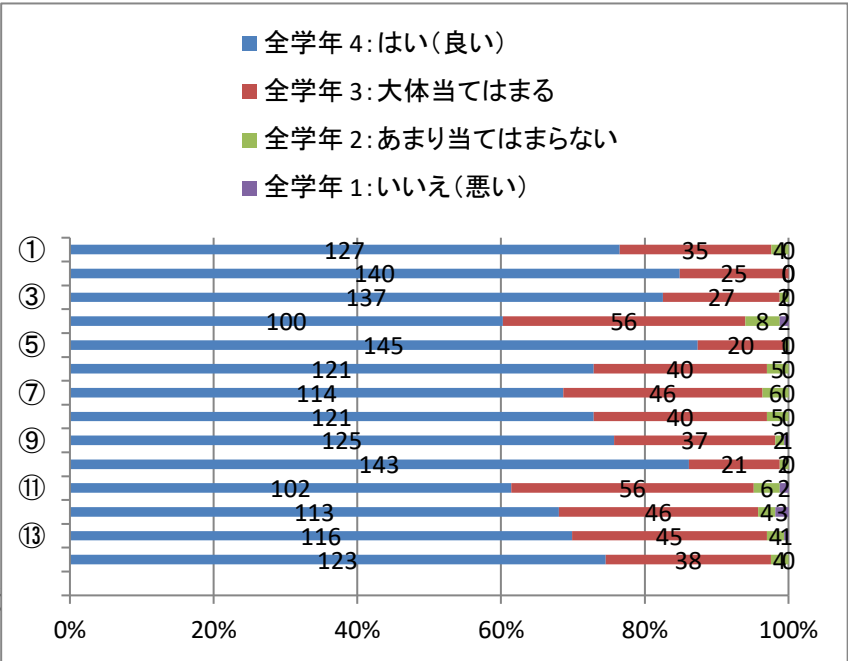
＜教育目標＞

丈夫なからだで元気よく、豊かな心でたくましく、みんなと仲良く遊べる子

1. 学校評価: 4段階評価によるアンケート実施

評価項目

- ①お子さんは幼稚園に行くのを楽しみにしている
- ②お子さんは先生を慕っている
- ③お子さんは幼稚園で友達との関わりを楽しんでいる
- ④お子さんは幼稚園の出来事を家で話している
- ⑤お子さんは諸行事に喜んで参加している
- ⑥お子さんは幼稚園生活で自主性がめばえたと思う
- ⑦教師は子ども達の良い所を見つけ伸ばそうとしている
- ⑧教師はお子さんの幼稚園生活をよく見てくれている
- ⑨教職員はお子さんの健康や安全確保に努めている
- ⑩幼稚園の雰囲気は明るい印象が感じられる
- ⑪幼稚園と保護者の連携がとれている
- ⑫幼稚園は環境設備に配慮している(園舎、園庭、遊具など)
- ⑬幼稚園からのおたより、通信などわかりやすくなっている
- ⑭協力員制で行事のお手伝いをして頂くことはいかがでしたか



「4段階評価以外に特別な意見として」

・安全面について(遊具、駐車場、門の出入りセキュリティー面の不安)

・給食(4月の給食回数を増やしてほしい)

・衛生面の対応について(歯ブラシの保管の方法について、手洗いをこまめに、手拭きタオルの取り扱いについて、トイレ用のサンダル使用)

・メールやホームページで園の様子を知りたい

・上の子の時より改善されていて助かっている

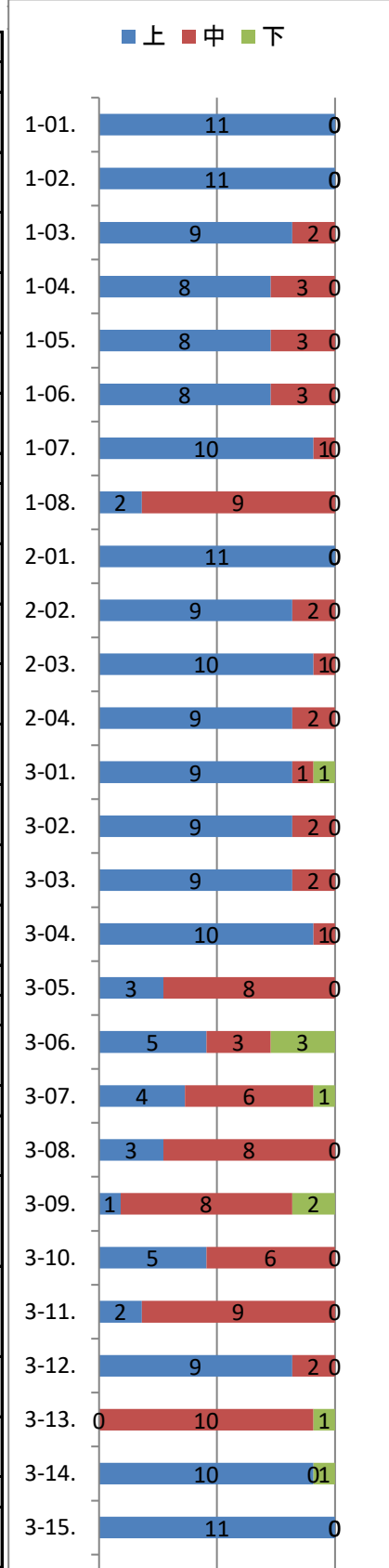
・幼稚園の保育がこんなに手厚いものだと思入園して知った。安心して預けられる。

2. 自己評価

ー1. 実施項目

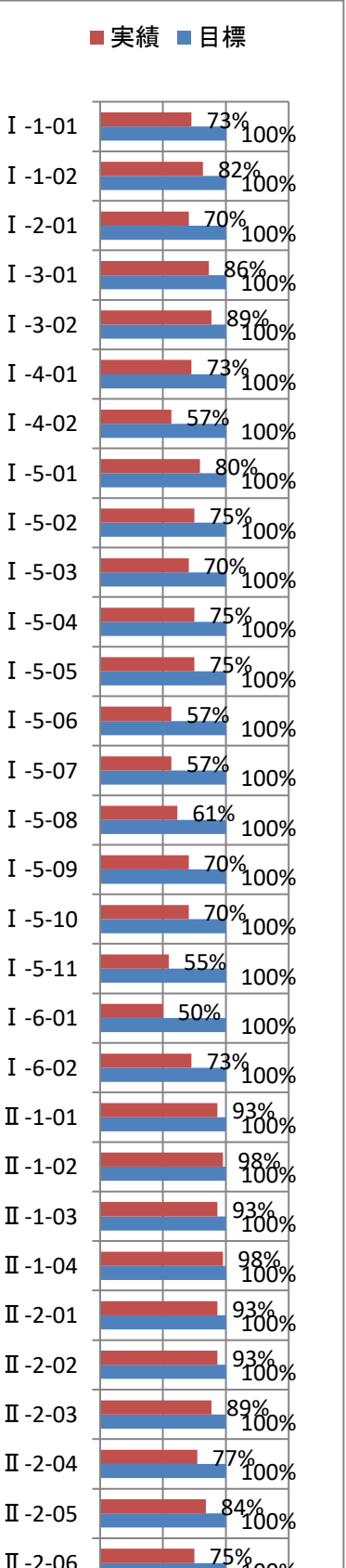
自分磨きチェック: 3段階評価(上(良い)・中(普通)・下(悪い))

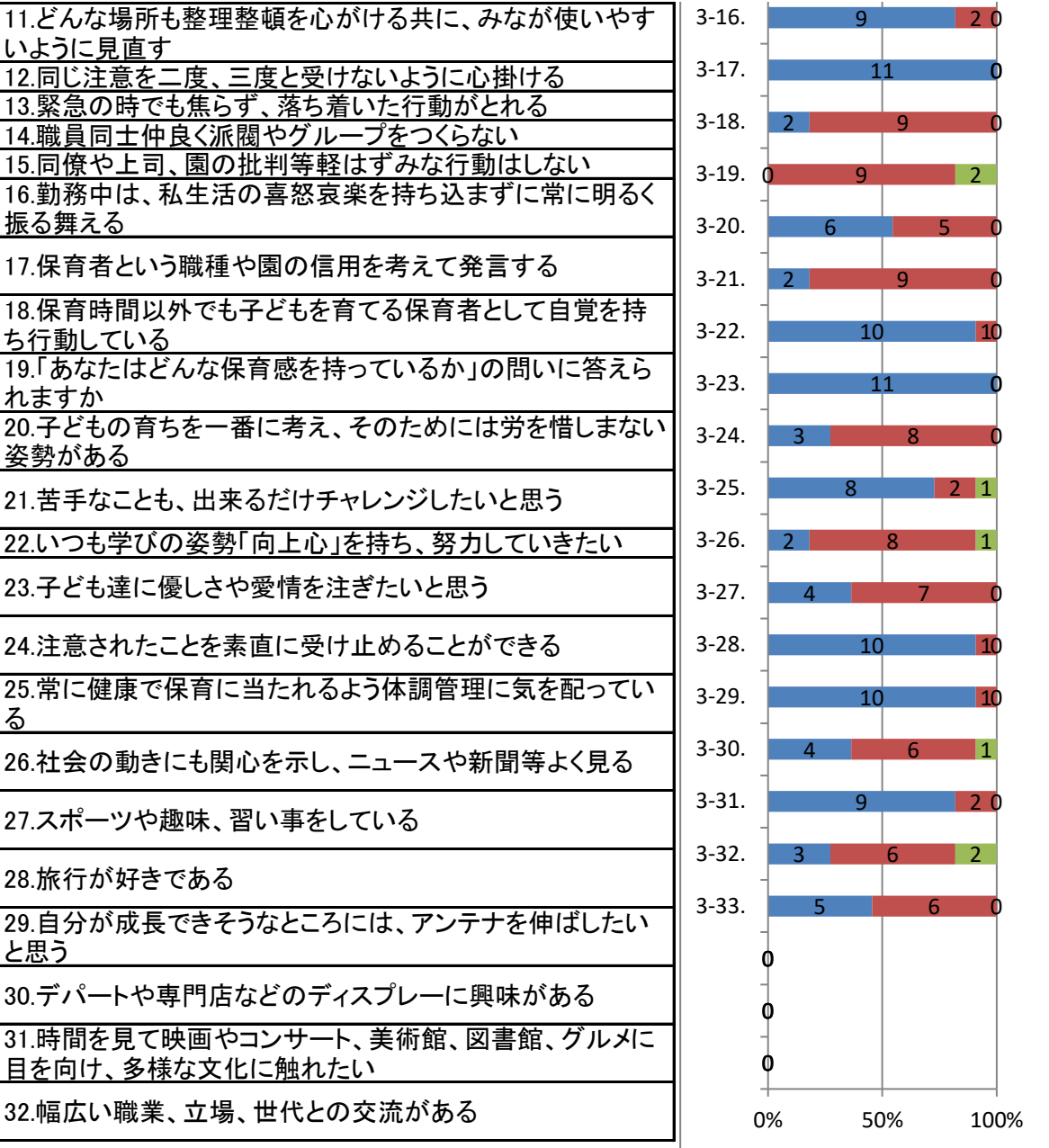
評価項目
(1)「子ども」について
01.子どもの表情・しぐさ・つぶやきなどを見逃さずに受け止めている
02.子どもの発見を素晴らしいと思い、感動することがある
03.その場限りで子どもを判断せず、継続的に見て判断している
04.子どもの行動に対して、なぜそうするのか心の理由を考えたり、探してみる
05.結果だけでなく、課程や取り組み具合をよく見ている
06.子どもであろうと、適切な言葉遣いを心がけている
07.園の教育方針を理解し、保育の中で活かしている
08.上司の話や文書の意味を理解し、保育の中で活かしている
09.偶然に起こったこと(雪や虹)なども保育の中で活かしている
(2)「保護者」について
01.保護者の言い分を素直に受け止め、否があれば謝り、出来ることは改善していく
02.子どもに関する専門的な情報や知識を有し、保護者の質問や疑問に答えられる
03.子どもの変化や出来事を出来る限り保護者に伝えようとしている
04.保護者との接し方は平等になるように心掛けている
05.保護者と親しくなっても友達のような言葉遣いはしないようにしている
(3)「保育者(自分磨き)」について
01.朝と帰りの挨拶を明るく言っている
02.人に呼ばれた時は、はっきりと返事をしている
03.自分の分担以外のことも関係ないと思わない
04.同僚との共同作業の場合でも自分のこととしてとらえ、他人任せにせず行っている
05.指示や伝言事項を正確に確認して伝える
06.自分の意見がある場合は、職員会議等で述べている
07.自分の考えややり方と違っても、文句や愚痴を言わず、決まったことには従う
08.出来ない理由を考えるより、どのようにしたらよいか対策を考える
09.優先順位を考えて臨機応変に仕事をこなす
10.常に集合時間や開始時間、提出期限を守る



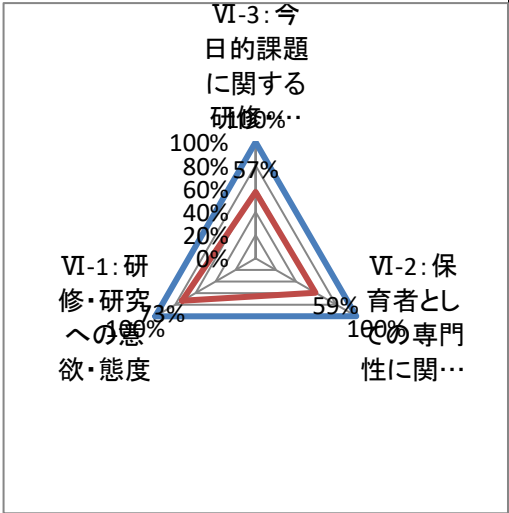
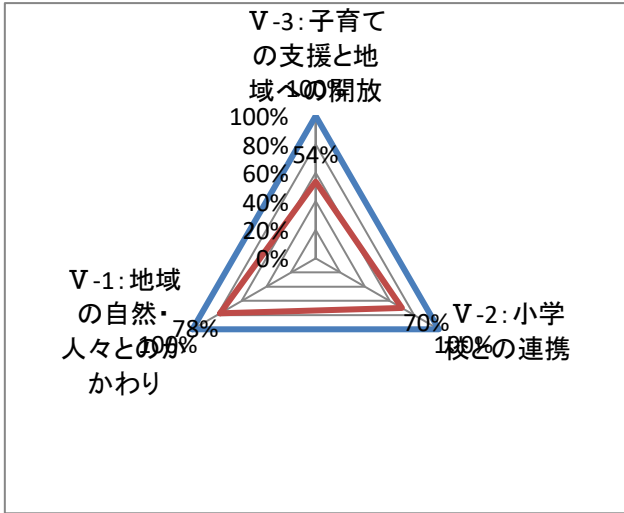
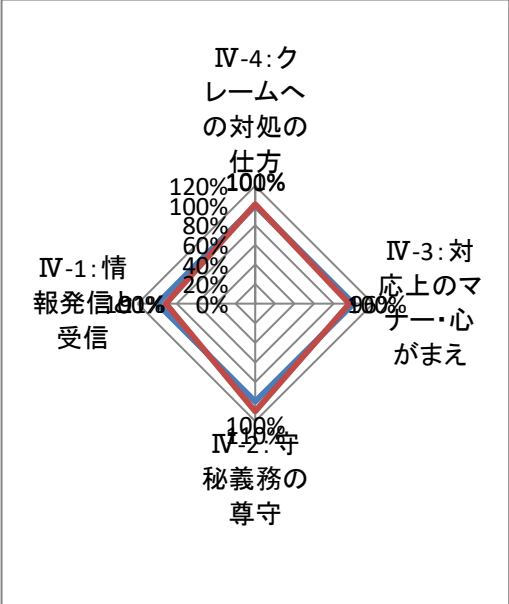
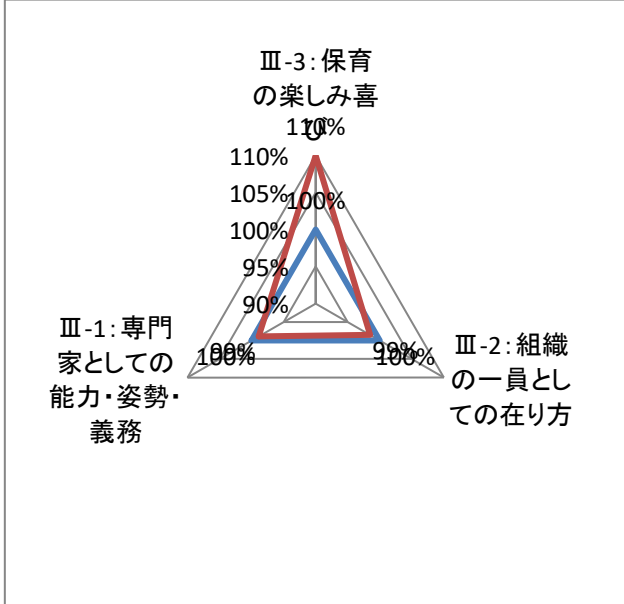
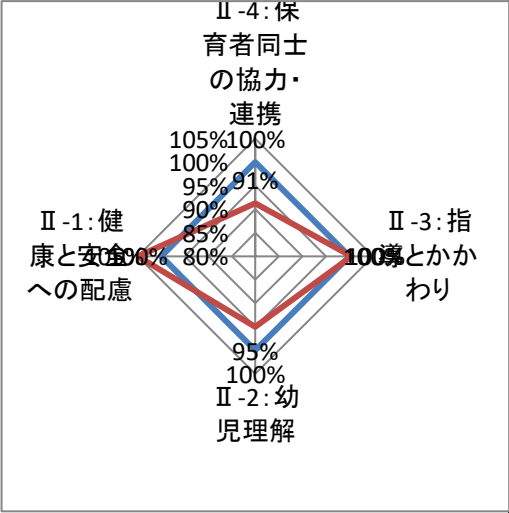
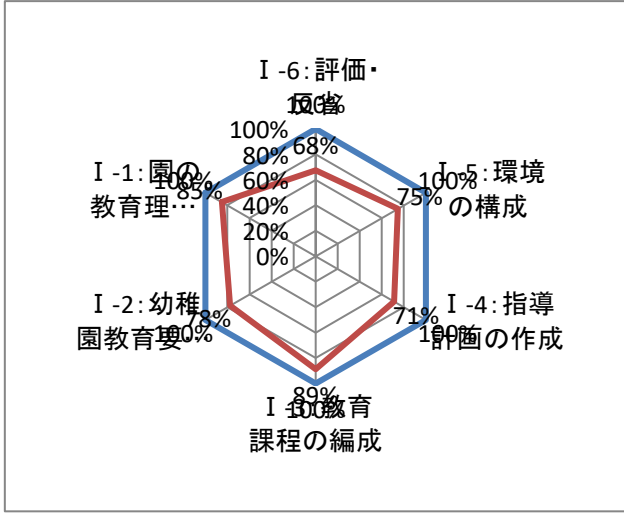
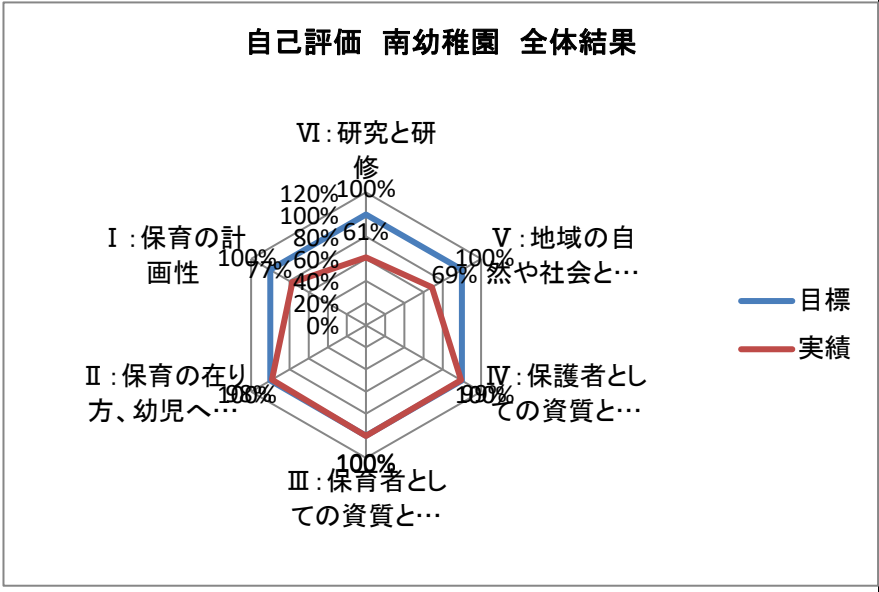
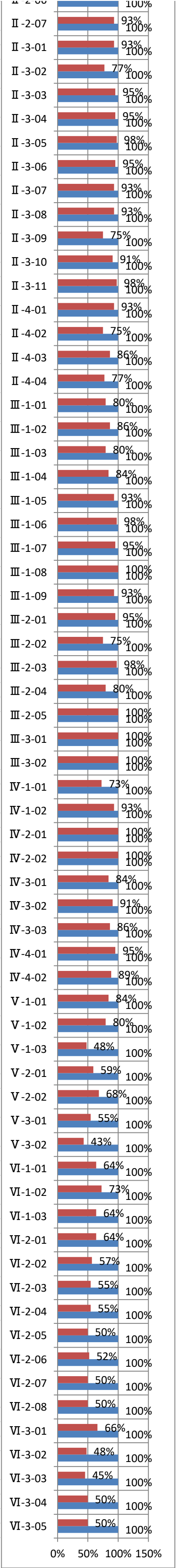
自己評価: 達成判断(出来ているものにチェック)

評価分類	内容
I 保育の計画性	1.園の教育理念・教育目標の理解 園の教育理念や教育目標を理解する 園の教育理念に基づいて教育目標について保育者と話し合う
	2.幼稚園教育要領の理解 幼稚園教育要領を読み、保育者と話し合って理解に努める
	3.教育課程の編成 園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成する 園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる
	4.指導計画の作成 指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する 指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする
	5.環境の構成 安全で清潔感のある環境を構成する 幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする 遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する 楽しい雰囲気のなかで安心して遊びこめる環境を構成する 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する 幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする 園地、園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす 幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする 季節の変化に応じた環境の構成をする 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構成をする
	6.評価・反省 自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行う
II 健康と安全への配慮	自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす 朝の登園時には特に視診を大切に、子どもの体調が悪くないかを確かめる けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に診てもらうなど適切な処置を行う
	園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る
	一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る
	幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる
	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する





Ⅱ 保育の在り方、幼児への対応	3.指導とかかわり	幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	
		幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知る	
		幼児の理解のために家庭との連携をとる	
		幼児の姿を多面的に捉えるように心掛ける	
		幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	
		幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使う	
		幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない	
		善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がける	
		幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける	
		幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	
	4.保育者同士の協力・連携	クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う	
		幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する	
		幼児自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰っているときには適切な援助をする	
		幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	
		幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしない	
		クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がける	
		クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う	
		幼児のことにについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける	
		他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫をする	
		Ⅲ 保育者としての資質と能力	1.専門家としての能力・姿勢・義務
保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める			
保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける			
幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込まないようにする			
幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする			
服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける			
職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る			
園の重要書類は持ち出さない			
2.組織の一員としての在り方	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る		
	教職員全員で一つのチームであることを自覚する		
Ⅳ 保護者への対応	2.組織の一員としての在り方	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努める	
		子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	
	当番や役割による仕事は確実に行う		
	園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さない		
	3.保育の楽しみ・喜び	幼児の成長を自分の喜びと感じる	
		幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる	
	1.情報の発信と受信	保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする	
		保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	
		2.守秘義務の遵守	保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う
			個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない
3.対応上のマナー・心がまえ		日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにする	
		電話は、相手が見えないため誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける	
4.クレームへの対処の仕方		保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	
		保護者からのクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をする	
Ⅴ 地域のかかわり	4.クレームへの対処の仕方	クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する	
		クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する	
	1.地域の人々とのかかわり	地域の人々と親しくあいさつや会話をかわすように心がける	
		地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	
		地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする	
	2.小学校との連携	小学校の教育内容について理解するよう努める	
		地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ	
		子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する	
	Ⅵ 研修と研究	3.子育ての支援と地域への開放	子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う
			子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う
子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う			
1.研修・研究への意欲・態度		研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する	
		自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う	
		自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	
2.保育者としての専門性に関する研修・研究		幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う	
		記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	
		教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	
		保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	
	幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う		
	保護者への対応に関する研修・研究を行う		
	地域社会との交流に関する研修・研究を行う		
	保護者同士の協力・連携に関する研修・研究を行う		
	アレルギー、自立の遅れなど、最近多くみられる問題について理解する		
	障がいのある幼児の理解と対応について研修する		
	預かり保育や子育ての支援について研修する		
	幼小連携の必要性や具体的方策について研修する		
	危機管理の必要性と対応について研修する		
	3.今日的課題に関する研修・研究		



(学)東松山学園 松山南幼稚園

3. 本年度重点的取り組み目標、計画
幼稚園生活が幼児にとって安全になるよう教職員による協力体制のもと幼児の主体的な活動を大切にして園庭や園舎など環境の配慮や工夫を行うことを目指す。

4. 昨年度自己評価に対して今年度取り組むべき課題

課題	対象領域	取り組み内容
幼稚園教育要領の理解に努める	I. 保育の計画性	幼稚園教育において育みたい資質、能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を明確にし教師が指導を行う際に考慮する。また、小学校教育との円滑な接続を深めるように努めた。
教師間の連携を図り一人ひとりの幼児の成長を多面的に捉える	II. 保育の在り方、幼児の対応	幼児の育ちを多面的に捉えるために担任だけではなく教職員間でいろいろな意見を出し合い話し合う機会を定期的にもち一人ひとりの幼児の理解を深めるようになった。
幼児の成長を自分のものとして捉える	III. 保育者としての資質と能力	保育者自身が幼児の成長を喜び一緒に生活を創り出すことを楽しいと感じていることが100%に達していることから保育への意欲、満足が感じられる。保育者自身が楽しんで保育に携わっている。
子育て支援（預かり保育）のための体制を整える	V. 地域の自然や社会とのかかわり	年々預かり保育を必要とする保護者が増え2号認定の園児の増加に伴い安全かつ安心した環境のもとで預かり保育を行うために担当教員の充実を図った。また、保護者の安定した気持ちで子育て支援が行えるように家庭との連携を図った。

5. 今年度自己評価に対して翌年度取り組むべき課題

今後の取り組み課題	取り組み内容
指導計画	具体的なねらいや内容が適切であったかどうか、環境の構成が適切であったかどうか幼児の活動に沿って必要な援助が行われていたかどうかを重視していく。さらに評価を生かして指導計画を改善していく。
安全管理の整備	災害時や不審者が立ち入った場合などの緊急時に危機管理マニュアル等の共通理解を図り体制を整備する。来園者のための入り口受付を明示し外部からの出入りを確認する。
特別支援教育の体制を整備する	教師が特別な配慮を必要とする幼児に対する理解を深め個に応じた手立てを検討し指導内容や指導方法の工夫を行っていく。また、保護者との綿密な連携をとるとともに外部との関係機関との連携を図る
研修、研究への取り組み	地区等の研修会には意欲的に参加し自己を高めるように努力はしているが研修の内容も限られているので自己課題を持ち他の研修会にも参加していく。

6. 学校関係者評価

ー1. 自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか

自己評価、自分磨きチェックの結果を数値化しており、問題となる内容を目標、課題として捉えていることから適切であると思います。

ー2. 自己評価の結果の内容は適切であったか

各設問、項目に対して教職員は自己を客観的に捉え公正に判断していると考えられるため適切であると思います。さらに、自己評価を3段階でなく、4段階にすると評価が明確でわかりやすくなると思います。

ー3. 自己評価に対して今年度取り組むべき課題は適切に行われているか

保育者の資質、能力は、個人差があるもののおおかた優れていると思います。更に今後、園全体で楽しく過ごせる環境を作っていけるのではないかと思います。全体的に見て、園の傾向として課題、取り組み、評価の一体化を意識しており、適切であると思います。自己評価の全体図は、今年度と昨年度実績が比較できるものにしていただけると取り組みの成果がわかり易くなり、より適切なものになると思います。

ー4. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

自己評価の結果から目標値に近づくための課題を具体的に提示していると思います。特に安全教育、特別支援教育など取り組む課題が明確に記載されており、適切であると思います。